



奈良県
いのちの教育

令和5年度「いのちの教育実践研究事業」



奈良県

「いのちの教育」

あらゆる「いのち」に共感し
「いのち」を大切にする心を育む教育

奈良県が目指す「いのちの教育」

- 動物への思いやりを深め、「いのち」の大切さを実感させる。
- 他者との関わりを深めながら、情操を豊かにする。
- 野生生物を含む自然環境の保護についての理解を高める。

「いのちの教育プログラム」とは？

うだ・アニマルパークで実施している「いのちの教育プログラム」では、私たちと動物との関わりに気付き、動物にも感情や要求(ニーズ)があるということ、動物の「いのち」が私たち人間と同じであることを感じ、それぞれの動物の「いのち」がよりよく生きるために私たちがどのような責任を負い、果たすべきなのかを考えます。



「いのちの教育実践研究事業」とは？

奈良県教育委員会は、うだ・アニマルパークにおける動物とのふれあい等を生かした「いのち」に関する学習を核に、教育活動全体で生命を尊重する心を育てる実践的な研究を行う「いのちの教育実践研究校」を指定し、その取組を県内に広く知らせています。

令和5年度は奈良市立大安寺西小学校と宇陀市立榛原小学校を指定し、取り組んでいただきました。

うだ・アニマルパークについて

宇陀市大宇陀の県畜産技術センターでは、60年以上にわたり、牛・豚・鶏などの試験研究を行い、様々な成果を上げています。平成13年4月に大家畜(牛)部門が宇陀郡御杖村の「みつえ高原牧場」に移転したことによる敷地の有効活用として、動物とのふれあいを通して次代を担う子どもたちの健全な育成を目指すとともに、県内外のみなさんにレクリエーションの場を提供し、社会全体の発展に寄与することを目指し、うだ・アニマルパークを設置することにしました。

うだ・アニマルパークは、人と動物とのふれあいを通して、動物を学び、動物から学び、そして動物のために学ぶ「いのちの教育」を行い、広く県民に、動物全般に対する理解を促進するとともに、動物に対する愛護の思想について普及啓発を図り、豊かな社会づくりに寄与することを目的とした施設です。



奈良市立大安寺西小学校 第2学年



『みんなつながり合って生きている』

【研究課題】

本校は、奈良市の北西部に位置し、学校の周辺には住宅地が広がっている。学校の前には春に桜の美しく咲き誇る佐保川が流れている。校内で動物の飼育は行っておらず、各学年で花や野菜の栽培を行っている。そのため、植物との関わりはあっても、動物と人間との関わりについて学ぶ機会はほとんどない。生活科の学習や、いのちの教育プログラムを通して、自分たちが動物や植物の命と深く関わっているということに気付かせ、つながり合って生きているのだということが実感できるように取り組んでいきたい。

【成果】

学校では1年を通して植物の栽培を行い、観察や収穫に楽しんで取り組んだ。また、いのちの教育プログラムや、本を通して動物の命について考える機会をもち、自分たちが動物や植物の命と深く関わっているということに気付くことができた。自分が飼っているペットや家畜、野生の動物について、それぞれが人間と深く関わっており、その上で人間が生かされているということを知ることができた。子どもたちは、この学びを、人間の誕生や成長について学習する生活科「これまでのわたし これからのわたし」につなげていき、人間も動物も植物もつながり合って生きているのだということを実感することができた。実践後、図書室や学級文庫で動物の本を手に取り、興味をもって読んでいる児童の姿が多く見られるようになった。この学習が途切れることなく続いてほしいと願っている。

【取組の概要】

○植物

・生活科

ミニトマトの栽培(6~7月)

サツマイモの栽培(6~10月)

ハツカダイコンの栽培(11月~1月)

ミニトマト・ハツカダイコンを植木鉢で、サツマイモは学級園で栽培した。水やりをしながら、少しずつ成長していく様子に、植物も一つの命であることに気付き、収穫していただくまで命の始まりから終わりまでを感じることができた。

○動物

・いのちの教育プログラム

・絵本

「動物はわたしたちの大切なパートナー」

うだ・アニマルパークのいのちの教育プログラムでの学習を行うとともに、絵本を用いて動物と人間との関わりについて考えることができた。ペットや家畜、野生動物の命について考え、いのちの教育プログラムで学んだことについて、絵本の場面と重ねて考えることができた。

○人間

・生活科

「これまでのわたし これからのわたし」

自分自身のこれまでの成長の記録を絵本にしてまとめる活動を行った。家の人にインタビューをし、自分自身がおなかの中にいた時、生まれた時、1才の頃…と自分の成長の記録を言葉にしてまとめることで、自分自身がみんなに大切にされてきた一つの命であることを感じる事ができた。

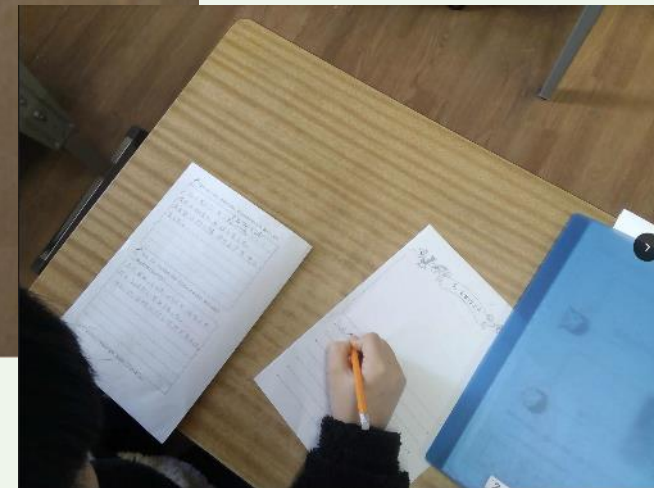
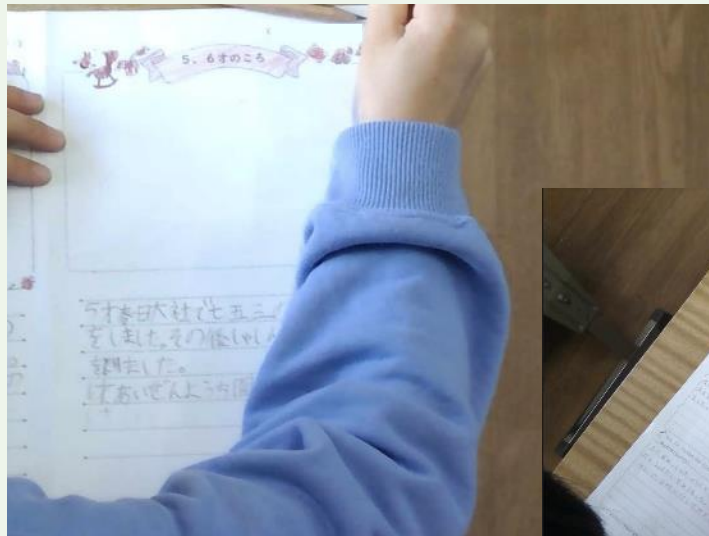
植物 ~ミニトマト・サツマイモ・ハツカダイコンの栽培~



生活科で、ミニトマト・サツマイモ・ハツカダイコンの栽培を行った。ミニトマト・ハツカダイコンは自分の植木鉢で栽培することで、責任をもって世話をしていた。

だんだん大きくなってきた葉や実の様子を観察しながら、収穫するのを楽しみにしていた。日々成長していく様子に、植物も一つの命であることを感じるとともに、収穫し、いただいた命が自分たちのからだを作っているということについても学ぶことができた。植物の命が自分たち人間の命につながっているということを実感していた。

人間 ~生活科「これまでのわたし これからのわたし」~



家の人に生まれた頃からこれまでの自分の事を教えてもらった。聞いたことを自分でまとめ、一人一人が成長アルバム作りに取り組んだ。アルバム作りを通して自分自身も一つの命であり、どれだけ大切に育ててもらったかを知ることができ、児童はとても喜んでいった。完成したアルバムをみんなの前で発表することで、育ててくださった方に感謝の思いをもつことができた。また、自分と同じように、友だちも愛情をもって育ててもらっているということを知ることができた。

動物 ～絵本「動物はわたしたちの大切なパートナー」～

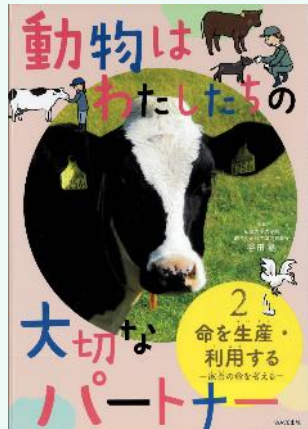
「動物はわたしたちの大切なパートナー」(全3巻)

1. 命に責任をもつーペットの命を考えるー
2. 命を生産・利用するー家畜の命を考えるー
3. 命を保護・管理するー野生動物の命を考えるー



スーパーに並んでいるお肉がどこから来ているのかはじめて知った。

かわいそうだけど、おだにせず食べたい。



最後まできちんとお世話してあげたい。

動物の命も人間の命も大事にせなあかん。

ペットを飼っているからペットの命について考えてみたい。

奈良公園のシカも野生生物なのかな？

動物の本をもっと読んでみたいな。図書室にあるかな。

うだ・アニマルパークの「いのちの教育プログラム」での学習も思い出しながら、自分たちの暮らしを支えてくれる動物も一つの命であるということについて考えることができた。絵本の読み聞かせを行い、飼っているペットや奈良の鹿のことを思い出して友だちと話し合った。授業が終わってからも、全3巻の絵本を自由に手に取れるように教室に置いた。**休み時間に友だちと絵本を囲みながら、自分の考えを話す様子が見られた。**飼っているペットや、生活の中での動物との関わりについて改めて考えることができた。給食では、命をいただいているということを実感しながら「いただきます」や「ごちそうさま」を大切に言える子が増え、命を無駄にせず食べようという意識が広がった。これまで動物との直接の関わりの経験が少なかった子も、**自分の立場で動物との関わりについて考えようとする姿が見られるようになった。**

宇陀市立榛原小学校 第3学年



『命の大切さを考える～様々な学習を通して』

【研究課題】

本校は、近鉄榛原駅からほど近い場所に位置し、全校児童295名の中規模校である。「あぶらや」をはじめとする榛原駅近くの古くからある建物がある一方で、駅前開発によって高層マンションが立ち並び、新と旧が混在する町並みである。

本校の3年生は、1年生・2年生の生活科などで、アサガオや夏野菜を育てる活動をしている。また3年生では、理科でハウセンカやミニヒマワリ、マリーゴールドを育てたり、チョウの卵や幼虫を飼育したりして、「いのち」に触れる活動をしている。しかし、水やりを忘れる子がいたり、チョウの飼育に積極的でない子がいたりして、「いのち」の大切さを十分に理解できていないようである。

今年度のいのちの教育で、いろいろな生命に触れる活動を通して、「いのち」について興味をもったり「いのち」の素晴らしさを知ったりして、「いのち」を大切にすることを育みたい。

【成果】

「いのち」は大切であるということは、これまでの学習において学んできているが、動物と人間との関わりや生き物の気持ちについてさらに考えることができるようになった。振返りの作文では、「動物の命を大切にしよう」「動物にも気持ちがある」と書いていた児童もいた。休み時間に見つけた生き物についても、その生き物の「いのち」を思いやるような発言がみられるようになってきている。取組全体を通じて「生き物の命を大切にしよう」「生き物のことを思いやろう」という態度を醸成することができた。

また、理科の学習では、植物や昆虫の一生を学習し、「命がつながっていく」ということを知ることができた。人権学習の「きみの家にも牛がいる」では、自分たちの生活の中で、牛からもらっているものが多くあることに気付くことができた。命をいただいて、自分たちが生活していることについて考えることができた。

【取組の概要】

○「いのちの教育」プログラム



動物や人間との関わりについて考えることができた。

○理科

・植物 ハウセンカ・ミニヒマワリ・マリーゴールドの栽培

種をまき、育てて観察を行った。植物も命であることに気付くことができた。

・生き物 チョウの飼育、昆虫のからだ・育ちについて

昆虫はどこにいて、どんな色をしているのかを調べた。生きるために工夫をしていることに気付くことができた。

○道徳

・「赤ちゃんもごはん食べてるよね」
・「ごめんね、サルビアさん」

人間・植物の命について考えた。自分の経験と重ねて考えることができた。

○人権教育

・絵本「きみの家にも牛がいる」

身近なところに牛に関わるものがたくさんあることを知ることができた。自分たちのくらしが動物に支えられていることに気付くことができた。

○国語科

・第2回奈良県「いのちの作文コンクール」への取組

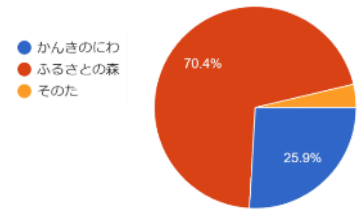
一人一人が自分の身の回りの「いのち」に向き合う機会にできた。

理科 植物の栽培、昆虫の学習

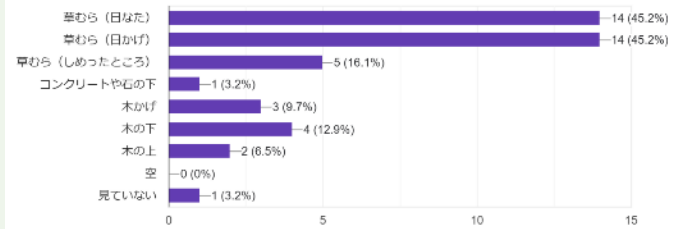
1学期には、ミニヒマワリ、マリーゴールド、ホウセンカの種をまき、育てた。芽が出て大きくなり、花が咲いて実ができ、種ができる様子を観察することで、**植物も命があること、命が受け継がれていく**ことを学習することができた。

また、チョウの飼育を行い、タマゴから幼虫、サナギ、成虫と成長していく様子や、成虫がまたタマゴを**産み命がつながっていく**ことを知ることができた。

どこで見つけましたか
27件の回答



バッタはどこにいましたか。
31件の回答



2学期の「昆虫のからだや育ちについて」の学習では、昆虫がどこにいて、どんな色をしているのかを学校の中で調べた。白や黄色、緑色の生き物が多く、身を隠したり餌を見つけたりしやすい雑木林(ふるさとの森)にたくさんいることが分かった。昆虫が**生きるためにからだのつくりやすみかの工夫をしている**ということに気付くことができた。

道徳 「ごめんね、サルビアさん」「赤ちゃんもごはん食べてるよね」

「ごめんね、サルビアさん」【自然愛護】

【児童の感想】

- ・植物も生きているから大切にしていけないといけない。
- ・きちんとお世話をするのが大切だと思った。
- ・動物や植物にも大切な命がある。
- ・ミニヒマワリたちにちゃんと水やりをすればよかった。
- ・次に育てるときは、大切に育てよう。

「赤ちゃんもごはん食べてるよね」【生命の尊さ】

【児童の感想】

- ・命はみんな大切にされて生まれてきたんだなと思った。
- ・赤ちゃんを産むときがそんなにたいへんだなあと思った。
- ・私もこうやって生まれてきたんだなあと思った。
- ・命は大切だとおもった。
- ・弟がおなかにいるときのことを思い出した。
- ・自分も大切にされてきたんだな。

「ごめんね、サルビアさん」では、身近な動植物を大切にするにはどのような気持ちが必要か、具体的に考えることができた。「赤ちゃんもごはん食べてるよね」では、主人公とお母さんが、新しい命のいぶきを捉え、その喜びを分かち合っていることに共感することができた。**お話と自分の経験を重ねながら植物や人間の命の尊さについて考えることができた。**

人権教育「きみの家にも牛がいる」

お肉好きー。



うちにも牛の皮
使ってるものあるわ。

きみの家には、牛がいる？
牛を飼っていなくても
牛がないわけじゃない。
(本文より)



こんなものにも
使われているんや。

へー、骨も
使うんや。

【児童の感想】

- ・動物から命をもらっているから、きれいなものでも無駄なく大切に食べたい。
- ・感謝しないといけない。
- ・命をいただいているから、大切に食べたり、使ったりしないといけない。
- ・無駄なく命をいただく。

自分たちの身近なところに牛に関わるものがたくさんあることを知り、その命をいただいていることに気付くことができた。また、普段使っているものを大切にしたり、**感謝の気持ちをもっていた** **だ**くということを考えたりすることができた。

国語科 第2回奈良県「いのちの作文コンクール」への取組



妹に初めて離乳食
をあげたとき、すごく
きんちょうしました。

亡くなった祖父か
らもらった最後のお
年玉を大切に使用
おうと思いました。

いのちの教育プログラムの内容を振り返りながら、動物の命や動物の気持ち、動物との関わり方、家族との関わりや、昆虫や動物を家族の一員として飼育することについて自分のこれまでの経験をもとに作文を書くことに取り組んだ。

自分の経験の中で「いのち」と向き合い、素直な言葉で綴っていた。**経験したことを書くだけではなく、その時の自分の思いをくわしく書いたり、これから「いのち」にどう向き合っていくのかという考えを言葉にできるように個別に指導した。** 思いを文章にすることで、一人一人が身の回りの「いのち」に改めて向き合う機会にすることができた。